

1 単元のデザイン

本単元の目標

- 目的に合わせた表し方や工夫をまとめ、とらの巻を作成しようとする。【関心・意欲・態度】
- 身の回りの文章を読み比べ、目的に合わせた表現の違いを読み取ることができる。【読むこと(1)イ】
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)】

単元について

○本単元は、画像や図表を多用した文章について、その表現の違いと効果を考える活動を通して、目的に合わせた表現の違いを読み取る力をつけることをねらいとしている。同じ商品について説明した「広告のちらし」と「取扱説明書」という、目的が明確で身近なテキストが題材として取り上げられている。読み比べる観点は、後の実生活に即した様々な文章の読み取りに活用することができ、今後の学習に生かすことができる。

児童について

○本学級児童は、二つの短い文章の表現の違いを一つの観点で読み比べている。その際、約10%の児童は全ての違いは見つけることができていない。また、写真や図と叙述を関係付ける授業はしているものの、複数の資料を読み比べる経験はない。表現方法の経験としては、新聞、紙芝居、簡単なポスターセッションがあるが、今回取り上げようと考えている文章を作成した経験はない。本単元を通して、様々な実用的な文章をいくつかの観点で読み比べる力を高める必要がある。

指導の手立て

○本単元の指導に当たっては、「課題の設定」において身の回りの文章で表現されているものを自ら持ち寄せ、文章の書き方を自分たちなりにまとめる「とらの巻」を作成する意義を実感させたい。また、「とらの巻」に整理する観点を「広告のちらし」と「取り扱い説明書」の題材を比較させることで考えさせ、主体的な課題解決学習となるようにする。「整理・分析」過程ではグループ思考の場を設定する。話し合う視点及び方法を明確にするとともに、付箋を活用して見える化を図り、個々の意見が反映され、評価可能な交流となるようにする。

本単元における育成すべき資質・能力とのかかわり

○本単元では、「表し方 とらの巻」を作成するという目的に向かい、友達と協働的に話し合いながら整理する観点や方法を考える活動を仕組む。このことは、児童の課題発見・解決力を高めることにつながる。また、身の回りから情報を収集したりグループでのワークショップの場を設定したりすることは主体性・積極性を育成することにつながると考える。

2 本単元におけるパフォーマンス課題と評価の指標

「表し方 とらの巻」を作成する言語活動を設定する。身の回りにある実用的な文章を持ち寄り、目的に合わせた表現の違いや工夫をまとめ、今後の学習にも活用するための冊子を作成する活動である。全体で「広告のちらし」と「取り扱い説明書」の「表し方 とらの巻」をまとめた後、それを活用してパンフレット、リーフレット、本の帯、商品の箱、商品ラベルなどから個人課題を一つ選択し、観点に沿ってまとめる。そして個人課題でまとめたものを評価するものとする。

準		高		低	
順序やレイアウト	図の使い方	写真・図の使い方	説明の仕方	ことば	整
					表し方
					よ

3	○目的と相手が捉えられ、次の全ての観点で表し方や工夫が適切にまとめられている。 ＜観点＞ ・書かれている事柄・説明の仕方・写真や図の使い方・色の使い方・順序やレイアウト
2	○目的と相手が捉えられ、3観点以上の表し方と工夫が適切にまとめられている。
1	○目的と相手は捉えられているが、2観点までしか表し方と工夫が適切にまとめられていない。
0	○目的と相手が捉えられていない。 ○全ての観点が適切にまとめられていない。

3 単元構想図（単元計画と評価）

本単元で活用する既習事項

○「ほけんだより」を読みくらべよう（3年）
・二つの「ほけんだより」を読み比べ、それぞれの事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫を読み取る。

○作文レベルアップ作戦
～心の動きを伝えよう～（4年）
・二つの文章を比べ、表現の仕方のちがいを、心の動きを伝える技をまとめる。
・付箋を使ってグループで意見を出し合いまとめる。

本単元の学習の流れ（全8時間）

○学習の見通しをもつ（2）

課題の設定

- ・持ち寄った身の回りの実用的な文章を種類別に分類し、「とらの巻」にまとめる種類を決める。**資・能②**
【関】今後「とらの巻」を活用することを想定し、役立つという視点で意見を出そうとしている。
- ・「広告のちらし」と「取り扱い説明書」を参考に、まとめるための観点を決める。**資・能①**
【関】表し方やそのくふうをまとめるために必要な観点を、題材をもとに考えようとしている。

「課題の設定」の充実

- ・児童に収集させることで、身の回りには多くの実用的な文章があること、また様々な場面での表現方法として必要であることを実感させ「とらの巻」作成に必要感をもたせる。
- ・スキルタイムで観点を決めて比較する学習をし、比較したり整理したりする際には、観点を決めることが必要であることに気付かせておく。
- ・付箋を使ったワークショップ形式でグループ交流を行うことで、全員の意見をもとに話し合わせる。

○「広告のちらし」と「取り扱い説明書」を比較し「表し方とらの巻」にまとめる（4）

情報の収集

整理・分析

- ・目的や意図及び相手を読み取る
【読】広告と説明書について、それぞれの目的と相手を読み取っている。
- ・書かれていることがらをベン図で表し、違いを目的と関連させてまとめる。
【読】書かれていることがらについての工夫を、目的と関係付けて読み取っている。
- ・写真や絵の使い方、色の使い方、順序やレイアウトについて表し方と工夫をまとめる。
【読】写真や絵等の使い方についての工夫を、目的と関係付けて読み取っている。
- ・説明の仕方について、言葉の使い方と文の組み立て方の視点で比較し、工夫をまとめる。
【読】説明の仕方についての工夫を、目的と関係付けて読み取っている。

「整理・分析」の充実

- ・ベン図、KJ法等付箋を活用し、個々の意見をグループで整理させる。
- ・全体交流では、常に目的と関係付けた工夫であることが話し合いの中心になるよう、切り返し発問をする。

つかむ・見通す

追究する

○身の回りの文章の表し方と工夫をまとめる。(2)

まとめ・創造・表現

- ・個々に選択した文章について各観点で読み取り，まとめる。

【読】各観点に沿って表現の工夫を目的と関係付けながら読み取っている。

【言】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いてまとめている。

ふりかえり

- ・「表し方 とらの巻」にまとめた実用的な文章を活用できる場面別に分類する。資・能①

【関】「表し方とらの巻」にまとめた文章を，目的と相手の観点で分類し，実生活や各教科等の学習の場面で活用しようとしている。

本時 8/8

単元後

- ・他の単元や他教科，実生活で「表し方 とらの巻」を使って，目的にふさわしい表し方を選ぶ。
- ・他の単元や他教科，実生活で「表し方 とらの巻」を使って目的に応じて表現する。

資質・能力の評価

- ①課題を解決するための観点や方法を協働的に考えている。

＜課題発見・解決力＞

- ②単元を貫く言語活動への見通しをもちながら，自分の意見を述べたり，整理したものを書いたりしている。

＜主体性・積極性＞

4 本時の目標

「表し方 とらの巻」にまとめた文章を，目的と相手の観点で分類し，実生活や各教科等の学習の場面で活用しようとすることができる。

5 本時の目指す児童の姿（評価規準）

「表し方 とらの巻」にまとめた文章を，目的と相手の観点で分類し，実生活や各教科等の学習の場面で活用しようとしている。

B おおむね満足できる状況

根拠を述べながら概念化シートを作成し，実生活で使う場面を想定している。

- ・ポスターは，大事な特徴だけを一目見て多くの人に伝えるような表し方をする文章だから，概念化シートのDの部屋だ。読書習慣について全校生徒に伝える時に使ってみよう。
- ・説明書は買った人しか見ないし，くわしく内容を説明しているからCの部屋だ。放送器具の操作の仕方を放送委員会に初めて入った人に教える時に使ってみよう。

C 努力を要する状況と判断した児童への指導の手立て

- ・概念化シートにはっきり位置付くものから考えさせる。(ポスター，説明書)

6 本時の展開

学習過程

◎評価規準 ◇努力を要する状況と判断した児童への手立て			
展開	主な学習活動〔主な児童の思考の流れ〕	形態	教師の働きかけ
つかむ ／ 深め・広げる	1 「表し方 とらの巻」の内容を確認する。 (3分)	全体	・ 本時の活動に向けて、意図的に全ての文章の目的と相手を確認する。
	2 学習課題を理解する。 (2分)		
	学習課題 目的と相手の観点で文章を分類し、実生活で活用できる場面を見付けよう。		
	3 概念化シートに整理する。 (10分)	個人 ↓	・ 概念化シートへの整理の仕方を、例を使って説明する。 ・ 初めての経験であるため、4つの部屋に整理することとし、詳細な位置付けは、可能な児童のみに行わせる。 ◇位置が明確な、説明書や標語のみのポスターから整理させる。
	個人に対して伝える 特ちょうだけを伝える A B C D くわしい内容を伝える 多くの人に対して伝える		
4 グループで話し合う。 (10分)	グループ ↓	・ 話し合い用のシートとカードを準備する。 ・ 全ての児童が参加できるように、自信のない児童から発言させる。 ・ グループで一つの考えにまとめさせる。	
・ ちらしは多くの人目にふれ、特ちょうが分かるように書かれているからBの部屋だ。 ・ 説明書は買った人しか見ないし、くわしく内容を説明しているからCの部屋だ。 ・ 本の帯は特徴だけが伝えられていて、買おうとしている人だけが読むからAだ。 ・ 違う意見がある。本の帯は、買おうとしている人以外にも読んでほしいはずだから、Bの部屋に近い。			
5 全体交流で概念化シートを整理し、活用できる場面を話し合う。 (15分)	全体 ↓	・ 1グループのシートをもとにして、他のグループも意見を出し合い、目的と相手を根拠にして整理させる。 ・ 整理した後、どのような場面で活用できるか話し合わせる。 ・ 話し合いを踏まえて、自分がどのような場面でどのような種類の文章を書くか想定する。	
・ 本の帯は、読書週間で作ることができる。 ・ 総合で、リーフレットを作って、紹介する。 ・ 夏の宿題でポスターをかく。	個別		
◎さまざまな種類の文章を目的と相手を軸とする概念化シートに根拠をもって分類して、使える場面を想定し、実生活や各教科等の学習の場面で活用しようとしている。（ノート）			

	・ポスターは、大事な特徴だけを一目見て多くの人に伝えるような表し方をする文章だから、Dの部屋だ。Dの部屋に入るということは多くの人に詳しく伝える時に使えるということだから、読書習慣について全校生徒に伝える時に使ってみよう。		
／ まとめ・つなげる	6 学習を通して振り返りを書く。（5分） ・「表し方 とらの巻」をこれから使っていきたい。 ・自分たちで決めて作ったことがおもしろかった。 ・次は、新聞について入れればいい。	個別	・次の学習につなげていける振り返りを紹介する。

